

例会報告

第2472回例会報告議事録

日時 29年4月11日(火曜日)

場所 川村学園女子大学 我孫子キャンパス内 会議室

時間 12:15点鐘

ロータリーソング「我らの生業」

ビジター：なし

ゲスト：石井亜矢様(ハコカラ代表)

S.A.A.：高島会員

会長挨拶

鈴木会長



先ほど、正門をくぐって駐車場まで行く時に、満開の、これから散ろうとする桜が見えました。昔「花の命は短くて苦しきことのみ多かりき」なんて詩がありました。なぜ皆、花を愛でるのか。桜の花は特に命が短いです。花を咲かせて散って葉っぱが出て、それを虫に食われて、それでも必死に生きて冬を越して、また春に恵みの雨を受けて育つ花の命の苦しさ、はかなさを思います。

今日は子ども食堂さんについてのお話を石井さんに伺います。

食べるものが食べられない、貧しくて能力があるのに中学校に行けないとか、そういう話は昔はけっこう周りにありました。

私のいろいろな経験の中で、はかなく思うことのひとつの中にワンコ、犬があります。彼らは12、3年の命です。僕がじいさんになりかけた頃に幼犬で来て、僕より先に死んでいきます。その短い一生をなんとかいいものにしてやりたいと思い、ずぼらでマメでない私でも毎朝夕、1時間散歩をすることにしています。

幼児教育をされていて感じるのですが、子供の中に備えられた感性というものがこれからすごく大事になる時代だと思います。今はロボットが何でもしてくれて、マニュアルでパソコンで何でもできて、という時代の中で失う物がいっぱいあるんじゃないかと思ったりもします。だから子供達と一緒に何でも、バーチャルの世界でなく、現実の中で思いを交換し合う作業というのが人を育てる気がします。

昨年の卒業生でこういう男の子がいました。園庭でちぎれているトンボを見つけて僕のところに来ました。すると、もう一匹トンボが飛んできて僕の手にとまりました。僕が「ひょっとしたらお母さんかお父さんかもしれないね」と言うと、その子は大き粒の涙で泣き出しました。そうではなかったかもしれないけれど、そうだったらなんとかしてあげなきゃという話になりました。そういう感性が育つ教育というのはすごく大事だと思っています。

ロータリアンはいろいろな情報を得られる環境にあり、知ることによって善意の心にスイッチが入っていく気がします。気にかけているとアンテナが立ち、情報が入った時にキャッチできます。それは、ロータリーはどうあるべきかという日頃の思いが形になる時だと思います。アンテナがないと、情報が入っても知らぬ存ぜぬになります。

石巻再び、というのも佐藤先生と奥様に今ご足労頂いています。物見遊山でなく、私達が向こうで出来る事、それ以後に繋がっていく仕事ができるなら是非行きたいですねとお話しています。

そういう意味でも今日の子ども食堂のお話もとっても関心があります。どうぞ宜しくお願い致します。ありがとうございました。

親睦委員会報告

村越委員長

今日は特にございませぬ。

プログラム委員会

依田委員長



来週4月18日も外部卓話を予定しております。一級終活カウンセラーの相原秀行さんという方をお招きして終活についてお話していただきます。

18日もぜひご出席の方をよろしく願います。

出席報告

伊東会員(代理)

19名出席(全員で27名) 出席率70.37%

欠席者が8名。

業務の為：石原会員、今井会員、鎌田会員、湯下会員

入院の為：木村会員、澁谷会員



- ・例会臨時変更のお知らせ
松戸東RC 親睦旅行例会に変更
米山梅吉記念館にて13:30より

石井亜矢様のご紹介

依田プログラム委員長



今日の卓話者は石井亜矢さんです。先日ファイヤーサイドミーティングをさせていただいたハコカラというレンタルスペースを運営されています。その他に今回お話して頂く、あびこ子ども食堂を運営されています。我孫子カップまつり等の町づくりにも積極的に参加されています。美魔女アイドルグループ「公園坂46」のリーダーもされています。今日は子ども食堂についてお話していただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

卓話「子ども食堂について」

haco-color (ハコカラ) 代表 石井 亜矢 様



本日はお呼び頂きまして誠にありがとうございます。

あびこ子ども食堂を始めたきっかけは、国が発表した子どもの貧困率でした。今、子どもの6人に1人が貧困状態にあるというニュースを目にして、コンビニやスーパーで廃棄になる食べ物がたくさんある飽食の時代に食べられない子がいるというのはどういうことなんだろうと思い、いろいろ調べるようになりました。

調べていったところ、保護司をされていた広島のとあるおばあちゃんの記事を目にして、とても共感するところがありました。少年院を出たり入ったりしている非行少年、非行少女達を何百人と目にしてきた中で、お腹がすいている子ども達は犯罪に走る率が高いということに気づいたそうです。親の愛情を受けたご飯を食べたことがない、お金は与えられているけれどもいつもカップラーメンしか食べていない、こういった子ども達は犯罪に走る可能性がとても高いと、そのおばあちゃんがおっしゃっていました。その子どもが、今日は誰かを殴りに行こう、怖い話ですが、誰かを刺しに行こう、仕返しに行こうといった時に「ちょっと待て。ばあちゃんの所に来てごはんを食べてから行け」と無料で子ども達にご飯をふるまったそうです。そうすると、子ども達が何故か安心をして、「俺、なんかバカらしくなっちゃったな。お腹いっぱいになったし、ばあちゃんの所でちょっと寝ていくな」と子ども達に慕われ、何かあったらばあちゃんの所に行くようになり、やんちゃな少年少女たちのたまり場になったそうです。

我孫子では状況はちょっと違いますが、ひとり親や生活保護の世帯が意外と多いということや社会福祉課さんの方から伺い、我孫子でも何かできないかと思ったのが子ども食堂を始めたきっかけです。

幸い、レンタルスペースを持っていて、仲間達に呼びかけたところ、二つ返事で集まってくれて、去年3月に子ども食堂がスタートしました。

我孫子は農作物が多く取れる所ですので、農家さんが売れ残りでよかったら使ってくれないとか、倉庫に大きな鍋があるんだけど使ってくれないとか、おばあちゃんが亡くなって食器がいっぱい出てきたから使ってくれないかというような皆様の善意のご支援をたくさんいただいて、お1人300円いただいて材料費はどうか回しながら運営しています。

ボランティアなので持ち出しの部分も多くありますが、子ども達から元気をもらっているからと来てくださるボランティアの方もいらっしゃいます。下は中学生から上は80代の方がボランティアとして集まってくださり、一緒に料理を作っています。

私たちの子ども食堂にはメニューがありません。いただいたものを無駄なく使うということで、いただいたものが人参ばかりというようなこともあるのですが、主婦がたくさん集まっているので、いろいろなアイデアが出ます。

人の作ったものというのは本当においしく、あったかいものをみんなで食べるという環境をとっても受け入れていただいている、毎回5、60人くらい参加していただいています。子どもが家では食べないものをここではパクパク食べるというお母さん方もいらっしゃいます。

あびこ子ども食堂は我孫子の駅前にあります。あの辺りは裕福な世帯が多い地域だと思うのですが、ここがあるので家に帰った時に子どもとの時間をゆっくり持てたとおっしゃってくださった方がいたり、1年やってみて、実は困っているのは親なのかなとわかってきました。(次ページへ続く)

お仕事を、買い物をして、ご飯を作って食べさせて、お風呂に入れて、というのは大変なことです。子ども食堂に来ることで、家に帰ってから子どもに優しく接することができた、ゆっくり話を聞いてあげられた、久しぶりに一緒にお風呂に入ることができた、明日の準備を子どもに寄り添ってできた等、心の余裕が少しできた、という話を聞いて私たちもとても嬉しくなりました。

子ども食堂という名前ですが、「子どもも、もと子どももおいで」というキャッチフレーズでやっています。以前、おばあちゃんがお二人で来てくださいました。

ご主人が亡くなって、もともと料理が好きだったけれど子ども達も巣立って、ひとり分のご飯を作るのが逆に大変で、ひとり用のごはんもたくさん売ってるけど何だか味気なくて食べる気がしないとおっしゃっていたおばあちゃんは、ある日たまたま前を通りかかって、入ってきてくださったのですが、それから毎日きてくださり、実は今、その方はボランティアをしてくださっています。

私たちボランティアもこれをやることによって、地域との関わりが持てたり、世代間交流ができていたり、最初に自分たちが考えた以上の相乗効果が出ているように思います。

自分だけが幸せでも人生幸せじゃない、自分が楽しく、周りも楽しく、自分も幸せ、周りも幸せ、というのがポリシーで、ロータリーさんの理念を先ほど少し聞かせていただいて、目指しているものが近いのかなと感銘を受けました。

我孫子の駅前には塾がたくさんあります。その塾の子ども達がコンビニの前でカップラーメンを食べていたり、マクドナルドで食べているのを見かけます。便利な世の中ではあるのですが、たまには手作りのおにぎりもいいんじゃないかなと思います。塾に行く前にちょっと寄ってくれる高校生も多少います。塾の先生に、おにぎりを運んでくれないかという提案をいただいたこともありました。

そういったことも視野に入れつつ、子どもの食に関することをいろいろやっていけたらいいなと思っています。

こういうことをやっていますが私の家は決して裕福な家ではなく、主人も普通のサラリーマンです。リーマンショックのあおりを受け、2年くらい無職だった時代がありました。お金を稼ぐことも大事なのですが、地域、家族、仲間、友だちというものに関わる仕事をしたくて私はハコカラを始めました。

採算を度外視していて諸先輩方によく怒られるのですが、それで周りが幸せだったらいいじゃないかと思っています。本当に経営者としては甘いです。

カッパまつりの痛々しい写真が載っていますが、エイベックスという大きなレコード会社から実はメジャーデビューもしておりました(笑)。エンターテインメントもみんなに楽しんでもらえると、地域を盛り上げたいとか、そういった思いでやっています。

あびこ子ども食堂も、最初は子どもの貧困とか孤食とか、そういったことから始めたのですが、子ども達に私たち自身がレッテルを貼ってしまうんじゃないかと危惧しまして、誰でもおいでと垣根を取り払って活動しています。

昔は見た目で生活に困っているかどうか判断がついたのですが、今は見た目だけでは判断がむずかしいです。ですから1人でも来ていいんだよという声かけをするように心がけています。

参加する子ども達をけっこう叱ります。悪いことをしたら怒ります。ただ仲直りの手助けもします。

ゲームは持ち込み禁止です。テレビはありますが誰もつけたことがありません。

うちは飲食店ではないので、お片づけは自分でしなさい、台所まで運びなさい、お茶も自分で取らなさいと言っています。これは褒めるチャンスを増やすためです。下げ膳をしたら「えらいね。お家でもやってるの?」と聞くと「家ではやってません」「だったら、家でもやってあげて」と言うのと「わかった」と言ってくれます。そして次に来てくれた時に「どうだった?」と聞くと、「お母さん喜んでました」とでれでれと子ども達が言ってくれるので、「じゃあ今度はお皿洗い手伝ってみよっか?」と言うと「はい、わかりました」と中学生の男の子がけっこう素直に聞いてくれたりします。地域のおばちゃんに言われるのはハードルが低いのか皆受け入れてくれるのです。

何より参加者さんの「おいしかった。ありがとう。ごちそうさま。また来るね」が楽しみでやっているようなものですが、ボランティアの方に交通費も出せない状態なので、もしお知り合いにお肉屋さんや八百屋さん等いらっしゃいましたら、情報をぜひお願い致します。

今、市内に2つしか子ども食堂はありません。社会福祉課さんの方から、できれば我孫子の東側にも子ども達が気軽に集える場を作ってもらえないかのご提案をいただいておりますが、場所がありません。情報をいただければ大変ありがたいです。

食にきていただくのも大歓迎です。

まとまらない話で大変申し訳ないのですが、私たちは私たちにできることを小さくても細くてもいいから続けたいと思っていますので、ぜひご理解ご支援いただければと思います。本日はありがとうございます。

(質疑応答)

Q:何人くらい参加されているのですか。

A:着席で最大25名なのですが、それが2回満員になる感じで50名くらいです。約50名分の食事を6名のボランティアで2時間で作ります。

Q:何曜日ですか。

A:第2、第4木曜日です。

Q:もっと回数を増やしてほしいという声はありませんか。

A:実はありがたいことに、毎日でもやってほしいという声をいただくのですが、現在、子ども食堂に関して法整備がグレーな状態です。毎日やると飲食店扱いになってしまうとか、学校給食法とかも関わってくるので、回数を増やしたいけれどもむずかしい状況です。各保健所さんで特例を作る動きがあるようなので、それがクリアになれば、もう少し増やせるかなと思っています。

しよくどう

あびこ子ども食堂

あびこ子ども食堂は・・・
子どもだけでも入れる食堂です。

みんなで食べよう！
まってるよ！

地元のお野菜を中心にした、温かいごはんが食べられます。
理由を問わず大人の方もお子様もどなたでもご利用いただけます。
お気軽にご参加ください♪
ぜひ前もってご予約のうえ、来てくださいね。
※予約なしでもご参加いただけます。

参加費 おひとり 300円
(未就園児は無料です)

開催日と時間 悪天候や、やむを得ない理由による中止になる場合もございます。
当日 HP やお電話にてご確認ください。

毎月第2・第4 木曜日

※詳しい日程についてはHPにてご案内しています。

17:00~19:30

場所 我孫子市本町 2-4-14 ハコカラ
(我孫子駅南口徒歩1分・ピアソI裏)

我孫子駅
南ロータリー
ハコカラ

～お願い～

昨今取りざたされている子どもの貧困・個食・独食などの問題も考えながら、『食』を通じて地域の子どもたちは地域で育てていこうという思いで運営しております。地域のお茶の間として子どもだけでも！もちろん親子一緒でも！楽しく食事をしませんか？みなさまのお越しをお待ちしております。詳しくはHPをご覧ください。

また当日のボランティアや運営スタッフへのご参加、物資でのご支援のお申し出、ご寄付もお願いしております。活動の継続と地域での関わりを広げて行けるよう、皆様のご理解とご協力をよろしく願いいたします。

ゆうちょ銀行 記号 10540 番号 70357871 ACT (アクト) 他行から ○五八 (ゼロゴハチ) 普通 7035787

問い合わせ先 ACT Abiko Community Trunk
TEL 04-7170-0765 / Mail abiko.act@gmail.com
<https://www.facebook.com/abiko.community.trunk/>

Let's eat

鈴木会長より



石井さんのお話を今日伺って、行って一緒に経験させてもらう機会があったらいいなと深く思いました。

おっしゃる通り、向いている方向は一緒です。社会奉仕です。営利を目的にしていないので、それをうまく機能させるというのは生易しいものではないと思いますが、ずっと続けていただきたいと思います。

ニコニコBOX

お名前	メッセージ	金額
鈴木会長	石井亜矢さん お話ありがとうございました。	2,000円
荒井会員	石井さん 卓話ありがとうございます。	2,000円
小池会員	石井さん 卓話ありがとうございました。	1,000円
佐藤会員	2回連続休ませていただきました。	1,000円
瀧日会員	石井さんの卓話は感動的でした。有難うございました。	1,000円
福武会員	石井さん 貴重な卓話ありがとうございました。	1,000円
藤本会員	石井さん 卓話ありがとうございました。	1,000円
村越会員	石井さん 卓話ありがとうございました。	1,000円
当日計		10,000円
今期累計		320,000円

今週の表紙「古木庵 タニヤ」我孫子市湖北台1丁目16番地3号

湖北駅から歩いて2分の場所にある蕎麦・うどん屋さんです。座敷の座卓席もあるので、小さなお子さんがいても安心してゆっくり食べられます。

カレーうどん、天せいろがオススメです。

ロータリーの友事務局 ホームページ www.rotary-no-tomo.jp メールは web@rotary-no-tomo.jp

環境NPOオフィス町内会が中心となって2005年に立ち上げた新たな間伐促進活動が「森の町内会」です。この活動に賛同して「印刷用紙」や「コピー用紙」を使用する企業は2009年9月現在、92社にのぼり、その環境貢献として促進される岩手県岩泉町・葛巻町・青森県三沢市での間伐は、年間30haの規模になっています。グリーン購入大賞で大賞を、山村カコンクールで林野庁長官賞を受賞しています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

我孫子ロータリークラブは、環境貢献として、「森の町内会」を応援します。